

今日のトピック BOEの金融政策（2016年9月）

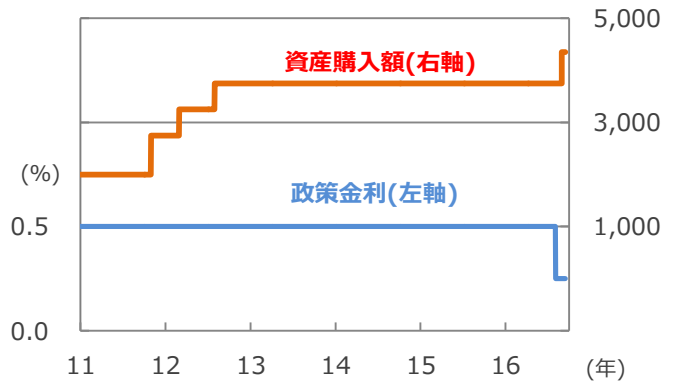
金融政策は据え置き、次回追加金融緩和か

ポイント1 金融政策は据え置き

政策金利、量的緩和規模とも維持

- イングランド銀行（BOE、イギリスの中央銀行）は、15日の金融政策委員会で、政策金利を0.25%で据え置きました。政策金利は、8月に0.50%から0.25%に引き下げられていました。
- 8月に拡大された量的緩和の規模も据え置かれました。国債購入を中心とした資産購入総額は4,350億ポンド、別途の社債購入枠は最大100億ポンドとなっています。

【政策金利と資産購入額】（億ポンド）



(注) データ期間は2011年1月2日～2016年9月15日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 8月の金融緩和は効果あり

2016年後半の減速は緩やかに

- 声明文では、8月に発表した金融緩和策は予想以上に資産価格を押し上げるなど、心強い初期の影響があったとしています。
- BOEは、前回の金融政策委員会以降に発表された経済指標の多くは、当初想定よりもやや強かったとし、2016年後半の成長率は当初の想定ほど減速しないと見ています。ただし、2017年以降の経済について明確な見通しを示すことは困難だとしています。

【英ポンドと10年国債利回り】 (%)



(注) データ期間は2011年1月2日～2016年9月15日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

11月に追加金融緩和が行われる可能性が高い

- BOEは、短期的な経済状況よりも中長期的な経済見通しを重視していると見られます。今後は、英国の欧州連合（EU）離脱選択の影響を受けて固定資産投資や雇用がどの程度の落ち込みとなるのがポイントと考えられます。
- 次回11月の委員会までに、経済指標の多くで強い結果が示されなければ、BOEは政策金利を0%近傍まで引き下げるなど、追加金融緩和を実施すると見られます。このため、英ポンドは当面下落圧力を受けやすいと思われます。

**ここも
チェック!**

2016年9月 8日 意外にしっかりと見られる英国の不動産市場
2016年8月26日 健全化が進む「ユーロ圏の財政」（欧州）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。